にっぽんの温泉特集

日本各地に点在する温泉地は、豊かな自然や歴史、地域文化に育まれながら、多くの人々を癒やしてきた。各地域では今もなお、さらなる活性化に向けて、それぞれの魅力を生かしたコンテンツに磨きをかけている。今回は、注目したい13温泉地の特色や最新トピックを紹介する。（関連16～18面）

今、注目の温泉地

北海道登別市 ■登別温泉

地獄谷と多彩な湯めぐりを楽しむ

露天風呂

登別温泉は、北海道を代表する温泉地として国内外から多くの観光客が訪れている。その歴史は古く、江戸時代にはすでに湯治場として利用され、1858年には近江商人の岡田半兵衛が登別温泉への道路を開削したことから本格的な開発が始まった。その後、宿泊施設の整備や交通網の発達とともに発展を続け、現在では北海道を代表する名湯として広く知られている。豊富な湯量と9種類もの泉質を誇る登別温泉は、訪れる人々を癒やし続けている。

◇イベントを楽しむ

1年を通じて地域の特色を生かしたさまざまなイベントが目白押しだ。「登別地獄まつり」は閻魔大王が地獄谷から赤鬼、青鬼を従えて温泉街を練り歩く迫力満点の祭り。鬼たちが花火をあげる「地獄の谷の鬼花火」、源泉への感謝を表す「湯まつり」などが開催されている。

◇オニスロを楽しむ

一昨年から登別市のSDGs推進事業の一環として、電動バス「オニスロ」の運行が始まった。環境にやさしい乗り物として温泉街や周辺施設を結び、観光客の移動をサポートしている。コンパクトな車体は温泉街の散策にも便利で、徒歩と組み合わせることで快適に観光を楽しむことができる。環境負荷の軽減と回遊性の向上を両立する、新しい観光の足として活躍している。

◇海の幸を楽しむ

登別市は海岸から8キロほど内陸に位置しているため、温泉だけでなく新鮮な海の幸も楽しむことができる。登別漁港で水揚げされるホッキやサケ、毛ガニをはじめとする北海道ならではの海産物は、市内の旅館・ホテル、飲食店で提供されている。

◇テーマパークを楽しむ

景観のほかにも、家族で楽しめる観光スポットが数多くある。登別温泉の象徴である地獄谷や大湯沼、天然足湯では、火山が生み出した迫力ある景観と四季折々の自然を楽しむことができる。また、のぼりべつクマ牧場では北海道を代表するヒグマの姿を間近に見ることができ、登別マリンパークニクスでは、イルカやアシカのパフォーマンス、人気のペンギンパレードなどが開催されている。

◇　◇

近年では、カルルス地区をはじめとした豊かな自然環境を生かしたアドベンチャーツーリズムにも注目が集まっており、登別ならではの魅力を体感できる新たな観光スタイルも広がっている。

登別国際観光コンベンション協会は、「登別温泉の天与の資源である源泉をしっかりと守りながら皆さまに愛される持続可能な観光地づくりにまい進していく」と話す。

登別地獄まつり

福島県福島市 ■高湯温泉

吾妻連峰に湧く源泉掛け流しの名湯

温泉街唯一の共同浴場「あったか湯」

福島県福島市にある高湯温泉は、吾妻連峰に連なる標高約750メートルの高地に位置する。温泉地は、磐梯吾妻スカイラインの入り口にあり、その全域が磐梯朝日国立公園に指定されている。磐梯吾妻スカイラインは、高湯温泉から同じく福島県の土湯温泉を結ぶ全長約30キロメートルの山岳道路。標高1622メートルのドライブが楽しめる観光ルートで、毎年11月中旬から4月中旬まで冬季通行止めとなる。今年は4月21日に開通した。

開湯から400年余りの高湯温泉の特徴といえば2010年、福島県庁により行い、全国で9番目となった「源泉かけ流し宣言」が思い出される。薬効の高さから「東北の草津」とも呼ばれる名湯だ。

温泉街には「花月ハイランドホテル」や、「旅館玉子湯」「安達屋」などの5軒の宿泊施設と、2軒の日帰り入浴施設があり、温泉はすべて源泉掛け流しで提供している。宿泊者にとってはうれしい「宿泊湯めぐり御朱印帳」も用意。「利用者から大変な好評を頂戴している」と高湯温泉観光協会。

あったか湯は、温泉街にある唯一の共同浴場で、露天風呂のみの設計だ。建物は昔の湯治場をイメージした和風建築で、木と石を基調とした男女別の露天風呂と、予約制の貸し切り露天風呂を用意している。あったか湯から約50メートル先には温泉街の憩いの場「あったか温泉公園」がある。近くには温泉神社や薬師堂があり、高湯温泉のパワースポットになっている。

温泉神社

高湯温泉の泉質は酸性で、高血圧症、動脈硬化症、リウマチ、糖尿病などに効果があるとされている。観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」の25年度の総合ランキングは第67位。温泉100選の選んだ理由別の「泉質部門」は第44位となっており、その泉質が評価されていることがよく分かる結果といえるだろう。温泉の湧出量は毎分2589リットルで、泉温は43～49・4度となっている。

温泉街では現在、地域活性化にも力を入れている。その取り組みの一つが、高湯温泉観光協会が主導して進めている「高湯温泉オリジナル日本酒プロジェクト」。高湯温泉オリジナル純米大吟醸が来年の27年に誕生予定で、商品名は「吾妻翠」。吾妻連峰の大自然の中に湧く白濁翡翠のかけ流しの湯になぞらえて決定された。福島県のオリジナル酒米「福乃香」を使用。温泉街にある旅館などの宿泊施設や、飲食店で提供される予定だ。

群馬県草津町 ■草津温泉

自然湧出量・日本一「温泉力」に自信

草津温泉のシンボル、湯畑

草津温泉（群馬県草津町）は、旅行会社のスタッフなどが投票する「にっぽんの温泉100選」で23年連続の1位を獲得している。日本三名泉の一つで、日本を代表する温泉地。「泉質主義」を掲げる草津温泉の「温泉力」を改めて紹介する。

◆自然湧出量日本一

草津白根山に降る雨や雪は、地中に染み込み、地下のマグマから吹き出るガスで温められ、成分を含み、長い年月をかけて湧き出る。草津温泉の自然湧出量は毎分約3万2千リットルで日本一。これは1分間で家庭の浴槽約160個分がいっぱいになる量。源泉数は100本以上といわれ、旅館・ホテルで主に使われている源泉は、湯畑、白旗、西の河原、地蔵、煮川、万代の六つで、それぞれに温度や成分が微妙に異なるが、全て酸性泉だ。

◆奇跡の酸性泉

草津温泉は、酸性泉でpH値は2・0前後。この値はレモンに匹敵する。五寸釘でも10日間つけると、針金のようになってしまう。高い殺菌力で知られ、コロナ禍の最中には、湯畑源泉の温泉水に新型コロナウイルスの感染を抑える高い作用が報告され、話題になった。一方で強い酸性の湯は、河川などへの影響が大きい。そこで「中和工場」と呼ばれる施設があり、石灰石の粉によって中和してから下流域に流され、自然に返している。

西の河原露天風呂

◆暮らしに温泉

草津町は、温泉を観光資源だけでなく、暮らしを支えるエネルギーとして活用している。万代源泉は約94・5度と高温なため、その温泉熱を水道水との熱交換に利用している。温度の下がった温泉は旅館・ホテルへ、温められた温水は公共施設、一般家庭に供給されている。また、冬の寒さが厳しい草津町では、道路下のパイプに給湯前の温泉や廃温泉を流すことで凍結防止、融雪に活用している。こうした温泉熱の循環利用によるCO_2削減効果は年間約1万6千トン。サステナビリティの観点からも注目の温泉地だ。

◆　◆

草津温泉は、温泉街の中央に位置する「湯畑」を中心に継続的なまちづくりが進められ、近年では、若年層にも人気の温泉地となっている。景観の魅力を高め、温泉街を相次いで整備したほか、「裏草津地蔵」エリアを再生した。湯畑のライトアップや季節のイベントを含め、散策が楽しい温泉地として人気が高い。

草津温泉は、上信越高原国立公園の2千メートル級の山々の尾根に位置する山岳リゾートでもある。草津温泉スキー場では、2023年、床の一部を透明化した「パルスゴンドラ天狗」が通年営業を開始。今年4月には、拠点施設「天狗山センターハウス」がオープンした。ジップラインなどのアクティビティ、特別日の夜間営業などが人気となっている。

長野県諏訪市 ■上諏訪温泉

「諏訪湖の花火」と「霧ヶ峰高原」を満喫

諏訪湖の花火

長野県の中央に位置する諏訪市は精密機械メーカーの集積地として知られる一方、信州最大の湖である諏訪湖に代表されるリゾート地としての顔も併せ持つ。その代表格は温泉で、諏訪湖畔にある「上諏訪温泉」は豊富な湯量を誇り、県を代表する温泉地となっている。

市内には数カ所の源泉があり、泉質は肌にやさしい弱アルカリ性。観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」の昨年の総合順位は過去最高の第24位に。数多くの温泉地を抱える長野県の中で最高位となった。

上諏訪温泉といえば花火を思い浮かべる人も多いだろう。例年夏休み期間の約1カ月間開催される「諏訪湖サマーナイト花火」は、今年は7月24日～8月23日（8月15日を除く）に開かれる。期間中は毎晩午後8時30分から10分間、花火が上がる。

諏訪湖で最大の花火イベントである「第78回諏訪湖祭湖上花火大会」は、今年も8月15日に開催される。諏訪湖ならではの轟（とどろき）と煌（きら）めきを迫力満点でお届けする。

昨年、分散方式に変更して6年ぶりに復活した「全国新作花火チャレンジカップ2026」は、今年も同じ方式で開催する。開催日は予選が9月の毎週土曜日の4回、決勝が10月の最終土曜日。

霧ヶ峰高原

諏訪湖でのアクティビティも充実している。諏訪湖周には1周16キロのサイクリングロードとゴムチップ舗装のジョギングロードが整備されており、多くの人々が楽しんでいる。市内にはレンタサイクル店があり、大人から子供までさまざまなタイプの自転車を用意しているので、大変便利だ。

諏訪湖上でのコンテンツもたくさんあり、さまざまな体験が可能。諏訪湖を船で巡る「観光遊覧船」は湖上から周囲の山々の眺望が楽しめ、「水陸両用バス」では湖周観光地への周遊と諏訪湖へのダイブで新感覚な興奮を味わえる。「カヤックツアー」や「足漕（こ）ぎスワンボート」も人気。カヤックはインストラクターが丁寧にレクチャーしてくれるので初心者でも安心・安全だ。

諏訪湖と並び訪れたい景勝地として霧ヶ峰高原がある。高原を駆け抜けるビーナスラインのルート上に位置し、霧鐘塔や薙鎌（なぎかま）神社からは絶景を楽しむことができる。春から夏のシーズンには高山植物の美しい花が咲き競い、多くの観光客を魅了する。

「長野県霧ヶ峰自然保護センター」では、そこでしか見られない動植物や地質、歴史などを実物や写真パネルで紹介。眺望が良いテラス、霧ヶ峰の魅力を紹介する映像コーナーも設けている。

諏訪へのアクセスも改善された。昨年7月に待望の諏訪湖スマートインターチェンジが開通。諏訪湖を一望できる諏訪湖サービスエリアに設置され、湖畔に直結し上諏訪温泉まで10分強。諏訪インターチェンジと組み合わせ、ビーナスラインと諏訪湖を周遊するコースを楽しむことができる。